

女性センターには、女性問題・男性問題に関する図書・行政資料をそろえ、誰でも自由に閲覧できるような情報図書コーナーがあります。その図書の中から中心に本などを紹介します。

こんな支援が欲しかった！災害支援事例集

東日本大震災女性支援ネットワーク発行



東日本大震災女性支援ネットワークは、被災した人々の多様に配慮し、脆弱性の高い人々、特に女性の権利が満たされる環境づくりを目指して活動されています。

東日本大震災の支援活動にあたって様々な団体の経験から得られた貴重な支援事例が集められています。被災者のみの事例集でなく、支援者・ボランティアに対しても書かれていて、ある程度の配慮をすれば、被災した人たち一人一人を大切に、支援者やボランティア自身も気持ちよく活動することが出来るようにヒントが書かれています。災害後どんなことがおきるのか知っておくことも防災の一つだと思います。普段の何気ない挨拶・生活が大事なのだと思わされます。(女性交流センター蔵書)

定年オヤジ改造計画

垣谷美雨

祥伝社刊



垣谷さんは、作家さんで結婚難・少子高齢化・震災・住宅ローンなどの社会問題を題材にした小説等を書かれています。ドラマになった「結婚相手は抽選で」の原作者です。

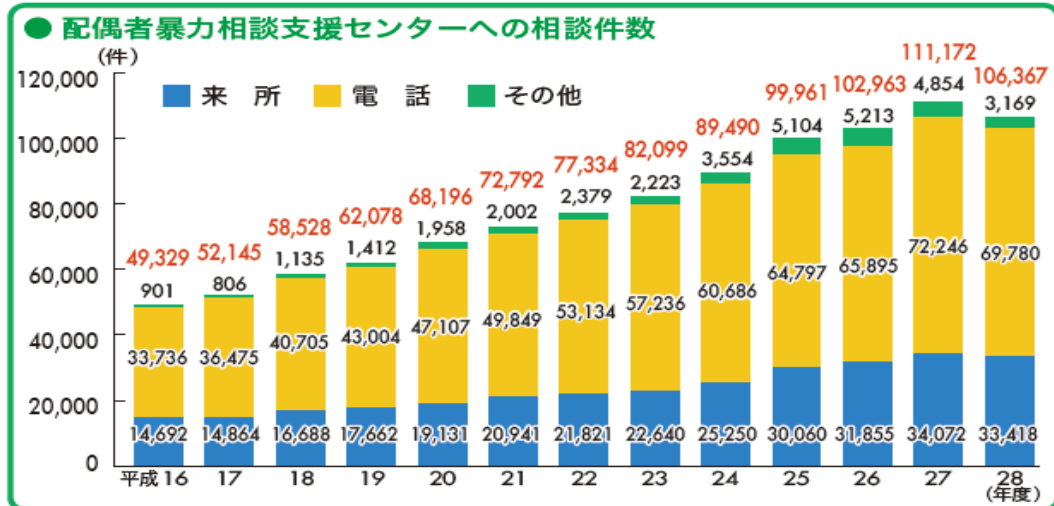
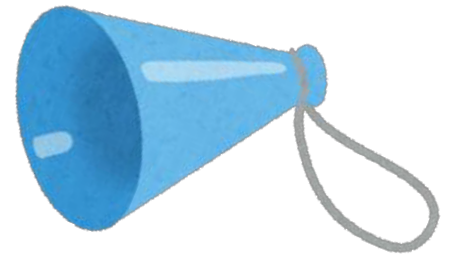
「男は仕事・女は家庭。仕事中心の人生で子育てに十分関わることは出来なかったが、家族を養ってきた！」という自負をもっている主人公に定年生活が始まった。しかし、自分が想像していた生活でなく、家にいると自分だけが家族の中で浮いているように感じるし、妻は夫源病。「家で過ごしていて楽なのに夫源病!?自分のどこが原因なんだ！」そんなオヤジに人生のチャンスが訪れます。良妻賢母・定年離婚・3歳児神話・母性本能・ワンオペなど盛り込まれていて、読んでいて痛快です。



1月15日(火)・2月19日(火)は、カウンセラーによる相談日です。ご希望の方は、市民対話課(☎43-6818)または女性交流センター(☎43-7800)にご予約下さい。

こんな表

見たことありませんか？



【備考】内閣府調べ。

毎年11月12日～25日は女性に対する暴力をなくす運動期間です。その取り組みの一つに今年には明石海峡大橋やモザイクの観覧車などが紫色でライトアップされました。

女性の約3人に1人、男性の約5人に1人は、配偶者(事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含む)から、これまでに「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」のいずれかを1つでも受けたことがあり、女性の約7人に1人は何度も受けています。この数字は20歳以上を対象にしたものです。配偶者暴力センターにおける相談件数は、3年連続で10万件を超える高水準で推移しています。どちらかの親が一方向的に暴力を受けていた姿を見て育った子供はそれが当たり前で、暴力のない家庭を知り驚いたという事を聞きます。また、私に甘えて暴力になるのだということも聞きますが、甘えでも愛でもありません。誰一人として暴力を受けて当たり前の人はいないのです。



医学部の合格者不正のニュースが大きくとりあげられましたが、医学・歯学分野の女子学生の比率は何割を占めているでしょうか？

